

春日野にて

柴

舟

にはかにも月の光の中に來つ千とせの杉の影をふみつつ
露じめる眞袖たれつ、赤人も憶良もかゝる月に立ちけむ
てる月の光となりて降りくらし古人のうれひよろこび
夜の氣も月の光もうち沈み動かぬ中にさをしもなくも
露ながらふむや芝草よき人のうたひなげかひふみし芝草
今千歳後に生れてこゝに來て誰か月みる我とひとしく
赤裳ひき手玉ならして露白き月の芝原來む人もあれ
鹿の音のなごりはるくひゞきゆく大野隈なくてる月夜かな
さしいで、月をうけたる枝ばかり白きもかなし夜半の神杉
てる月の前にぬぐひつはてもなきしじまの中におつる涙を

龍雲山莊十小記

劍堂 細田 謙藏 撰

四大草堂開豁

東海山水之大。駿之岩淵爲最。岩淵之勝。龍雲山莊爲最。山莊之勝。四大草堂爲最。堂位山頂。公高會賓友處。茅屋采椽。高不過常。廣劣倍丈。而眺矚開豁。物無遁形。富士河發源信州。穿千山萬壑而來。馳突犇駛。至是灌注肆大。汪々湯々。而爲草堂之流泉。駿海紺碧。與天一色。浩々渺々。而爲草堂之清池。壓河臨海。巍々焉擡首於蒼穹之表。而大麓寬衍斜博。跨數州者。蓮岳也。而爲草堂之牆壁庭除。山水之大如是。而草堂以領略之。此其所以最于岩淵于山莊也。因名曰四大草堂。有客曰。四大謂地水火風。地水火風何處無之。以名亭者何也。余笑曰。否。夫蓮岳也。駿海也。富士河也。三者物三大者也。而公昔爲提封之君。今爲朝廷大臣。夫齊雲飛翼樓名何曾不能構。而不爲。掌舞掌上舞。肉屏又曰肉陣。何曾不能致。而不取。使令則一減一獲。居則茅屋采椽。貴而不驕。富而能儉。是

雨亭曰。頌中寓規妙。